

武漢ウイルス研究所に米国の公的資金投入

英日刊紙デイリー・メールは29日、英ロンドン大学セントジョージ医科大学のアンガス・ダルグリッシュ教授とノルウェーのウイルス学者ビルガー・ソレンセン博士が作成した22ページの論文を入手し報道した。論文 (PDF) 1,231,840bite

ダルグリッシュ教授はがん治療とヒト免疫不全ウイルス (HIV) ワクチン分野で指折りの権威だ。

ソレンセン博士はノルウェーバイオ産業協会会長を務めたワクチンメーカーの最高経営責任者 (CEO) でもある。

2人の科学者は論文で、新型コロナウイルスが人為的に作られたとし3つの根拠を挙げた。

最初に、新型コロナウイルスから6つの「固有指紋」(操作の痕跡)が見つかり、これは実験室で人為的に手を加えた場合にだけ現れるというのが彼らの指摘だ。

2番目に、ウイルスのスパイクから1列につながった4個のアミノ酸がすべて陽電荷を帯びた部分が見つかった。

著者は陽電荷のアミノ酸は互いに押し出すためこうした構成は非常に珍しいと指摘した。

並んだ4個のアミノ酸がすべて陽電荷を帯びる場合、陰電荷を帯びるヒト細胞部分に磁石のようにくっついて感染力を強化すると指摘される。

著者はこれを「ウイルスを操作した証拠」と主張した。

3番目、著者は新型コロナウイルスには信頼に値する「自然的先祖」がないと指摘した。

ウイルスが動物からヒトに伝染したとすれば当然存在すべき中間宿主など自然のつながりを見つけられないということだ。

これを基に新型コロナウイルスは中国の科学者が洞窟のコウモリから見つけた自然ウイルスに新たにスパイクなどを付けて致命的で伝染性が強くなるよう操作したもので、武漢研究所から流出したとみられると付け加えた。

自然産に見えるよう操作の痕跡を人為的に隠そうと試みたと指摘した。

著者は「新型コロナウイルスが実験室で作られたということは合理的疑いを超える」と結論を出した。

論文は近く生物分野の国際学術誌「QR Bディスカバリー」に掲載される予定だ。

ダルグリッシュ教授はサンデー・タイムズとのインタビューで、「昨年新型コロナウイルスが人為的に作られたものという研究結果を出すと科学界から途轍もない攻撃を受けた」と明らかにした。

彼は「当時論文を載せる所を探すのも大変だったが、おそらく科学機関が中国を怒らせたくなかったようだ」と話した。

サンデー・タイムズは30日、英情報機関も新型コロナウイルスの武漢起源説を調査中だと報道した。

この日米ABCニュースは、昨年ハーバード大学の研究陣が衛星写真を根拠に新型コロナウイルス発生が公式報告される前の2019年晩夏～初秋頃から武漢の病院周辺で交通量が急増したことを指摘した事実を新たに伝えた。

中国の科学者は、ウイルスがパンデミックと宣言される前にワクチンの特許を申請しました。

伝えられるところによると、米国と関係のある中国の軍事科学者は、この病気が世界的大流行と宣言されるかなり前に、COVID-19ワクチンの特許を申請しました。

オーストラリアの新聞によると、人民解放軍（PLA）で働いていたYusen Zhouは、2020年2月24日に中国の政党に代わって書類を提出した。

その日付は、中国が新型コロナウイルスのヒトへの感染を最初に確認してからわずか5週間後のことでした。

周はまた、コウモリの新型コロナウイルスの研究で有名な石正麗を含む武漢ウイルス研究所（WIV）の科学者と「緊密に協力した」と言われています。

周は、特許を申請してから3か月も経たないうちに不思議なことに亡くなりました。

ニューヨークポスト紙は、彼が国内で最も著名な科学者の1人であったにもかかわらず、彼の死は1つの中国のメディア報道でのみ報告されたと主張している。

周は以前、ミネソタ大学やニューヨーク血液センターなどの米国の機関に関連する研究に取り組んでいたと新聞は報じた。